

ユスラ・マルディニさん

リオデジャネイロ五輪で初めて結成された難民選手団のトップを切って、シリア出身のユスラ・マルディニ選手（18）が6日、競泳女子100メートルバタフライ予選に出場しました。

五輪マークの入ったスイムキャップをかぶり、第1レースに登場。グレナダの選手と大接戦を繰り広げ、残り25メートルから一かきごとに引き離しました。5人中トップ。1分9秒21でした。

「ずっと私が夢見ていたことができた。すべてが素晴らしい。最高の舞台だった」と会心のレースを振り返りました。

鍛えた泳力

昨夏は、生き抜くためにギリシャの海を泳いでいました。1年後の自分が、世界

の夢舞台で水をかくなんて思ってもみませんでした。

競泳選手だったマルディニ選手は、激しい内戦により避難を決定しました。その道中で乗り合わせた小型ボートが転覆しそうになり、姉とともに海に飛び込みます。しかし、泳げない多くの人々を見過ぎてすこたがでず、鍛えた泳力で救命ボートを押しながらギリシャのレスボス島にたどり着きました。



シリア内戦避難ギリシャ沖泳いでボート押した

難民選手「夢」の力泳

「う」と語ります。

落ち着く日

その後、ドイツで人生の再設計をはかり、練習を積み重ねて難民選手団に選ばれます。今大会は自由形でも出場を予定しています。

「五輪では、すべての再設計をはかり、練習を積み重ねて難民選手団に選ばれます。今大会は自由形でも出場を予定しています。」

「勝又秀人」



競泳女子100メートルバタフライ予選に出場した難民選手団のマルディニ選手＝6日、リオデジャネイロ（AFP時事）

ユスラ・マルディニさん、きっと平和になった祖国の代表として、東京五輪に来下さい。私たちも平和憲法を守っています。

◎おはようございます。リオ5輪LIVE中継に見入ってはい、寝不足に注意ですね。34℃という日が続いています。気をつけて。

萩野公介選手が金メダル

◎幼い頃からのライバルとして、共に成長してきた瀬戸大也選手は銅メダル。表彰式を終えてメダルを掲げた2人の笑顔がよかったですね。

リオで初めて結成されたのが「難民選手団」

8/8付の「しんぶん赤旗」には、競泳女子100メートルバタフライ予選に出場した、シリア出身のユスラ・マルディニ選手の記事がのっていましたので、紹介します。→

南スーダンPKO 11月にも駆け付け警護の任務 安保法制=戦争法で初

◎実施されれば、今年3月に施行された戦争法にもとづく最初の任務となります。

憲法違反の武力行使すれば「殺し殺される」危険に

◎選挙が終わったとたん、安倍政権は、有権者とだまし討ちするようにして、戦争法の具体化に着手しました。複数の政府関係者が7日、「駆け付け警護」と「宿营地共同防護」の任務を付与。その任務の訓練開始について8月中に発表と明らかに。

憲法9条をまもりましょう

日本共産党北区議会議員 さがらとしこ

区政レポート

2016.8.9.No.1419

ご相談はお気軽に TELとも FAXとも 3905-0970

さがらとしこ事務所 赤羽北3-23-17 (バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

日本共産党議員団 区役所内 3908-7144



※裏面には、安倍首相が改造内閣の「最大のチャレンジ」として、「働き方改革」の危険なねらいを、おとどけています。



ヒロシマ(%)から
きょうナガサキ

「核兵器禁止を禁止し廃絶する条約を結ぶと
ヒロシマ国際署名しなげまじう。」

2016.8.9.
Takaoka Hiroshima 1419.

安倍首相の危険な「働き方改革」

2016.8.8.付
「Workforce Reform」
月刊8月号

担当相任命のねらい

安倍晋三首相は改造内閣の「最大のチャレンジ」は「働き方改革」だと述べ、加藤勝信一億総活躍担当相を「働き方改革担当相」に任命しました。長時間労働の是正、同一労働同一賃金の実現をあげ、「非正規」という言葉をこの国から一掃するのべました。(3日の記者会見)

そのうえで「働き方改革担当相」のもとに「働き方改革実現会議」を開き、年度内をめどに実行計画をまとめたといふべ

ました。これは労働行政を大本から崩す重大な動きといえます。この「働き方改

国際基準を無視

労働問題は、経営者と労働者の利害が対立するので、労働法の改定や政策を決めるさいは、厚生労働大臣の諮問機関である公益、労働、経営の3者同数(各10人)で構成される労働政策審議会(労政審)で議論し、その答申を受けて決める制

「改革」は本来なら厚生労働省が担当するのが当たり前です。それを新設の大臣のもとに会議でやるという「厚労省はずし」の体制をつくったことに危険なねらいがあります。

度になっています。これはILO(国際労働機関)が示す国際労働基準です。「働き方改革」をとなえ長時間労働の是正、同一労働同一賃金を実現する実行計画をつくるというなら、この3者構成の労政審に諮問するのが通

労働政策決定の場から 労働者の声を遠ざける

常の流れです。わざわざ別の大臣、機関をつくって議論する必要はありません。あえてこういう体制をとったのは、労政審だと労働者代表がいるので、

労政審を形だけに

「働き方改革」で担当大臣と新しい会議の設置で、安倍内閣は非正規雇用労働者の待遇改善に本気になっているとみたら大間違いです。実際はその逆で、労働者代表を加えずに何の障害もなく長時間労働、低賃金、不安定雇用の温存・拡大など

財界の意向がストレートで通らないという考えが背景にあります。たとえば政府の産業競争力会議の議員である竹中平蔵氏(パナソ会長)は、労政審では「議論は全く前に進まない」(2013年12月10日)などと、3者構成批判をくりかえしています。

定し、ほとんど固まった後に労政審の手続きを踏むというやり方をとってきました。いま政府が国会に出している「残業代ゼロ」法案はその典型です。そのやり方を雇用労働政策そのものの分野です。また、労政審はもはや単なる形だけの追認機関にすぎなくなってしまう

す。すでにいま厚労省で「多様な意見を反映する」ためとして労政審の在り方を見直す議論が始まっています。この問題とあわせて、労働者の声を遠ざけ、財界の主張がより強く反映される労働政策決定の新しいシステムづくりの動きとして注視する必要があります。(昆弘見)